

世界最大のサンゴ礁で大量死、豪政府が緊急対応

【3月24日 ナショナルジオグラフィック日本版】

世界最大のサンゴ礁「グレート・バリア・リーフ」で、サンゴの白化現象により死亡率が50%に急増していることがわかった。過去に例をみない大量死で、政府の発表によると原因は海水温の上昇だったという。大気中のCO₂の増加で海中のCO₂も増加し、海水温の上昇と海水の酸性化が進む中、サンゴの白化が加速すると考えられている。サンゴ礁はまた、農業や化学肥料、化学物質によるダメージや、サンゴ礁と共生している海洋生物の乱獲によっても珊瑚礁の生存が脅かされている。

人間活動は多くの分野で生態系を破壊し、自然から警告を受けている。

日本人の食生活調査 若者の米離れ顕著

【3月28日 日本農業新聞】

農水省の食生活実態調査で、月に一度も米を食べていない人が20代男性の2割に上ることが分かった。男女とも若い世代ほど米離れが進んでいる。食生活の多様化によって米の消費が減少していることが明らかになった。

2013年に「和食」が世界遺産となったが、若者の「米離れ」が進んでいる。米離れは、和食文化が失われるだけではなく、田んぼの減少も招いている。これは、天然のダムとしての保水力を失い、環境、食料、健康にも影響する。麺類、パン類、粉ものなど小麦の自給率は13%でほとんどが輸入。TPP問題とも密接につながる。和食文化や棚田などの日本の風景を大切にすることが、自分の身体と日本を大切にすることにつながる。

食料・エネルギー自給率100%以上の「永続可能市町村」30に

【3月30日 永続地帯研究会】

永続地帯研究会の『永続地帯 2015 年度版報告書』によると、食料とエネルギーの自給率とも100%を超える「永続地帯」市町村が30あることがわかった。

「100%エネルギー永続地帯」(需要を上回る再生エネルギーを生み出している市区町村)も、2012年の50市町村から、2015年の61市町村に増加した。

食料やエネルギーの自給自足は、世界情勢、原油価格などに振り回されず、人々の安心にもつながり、地域経済にもいい影響をもたらす。国も自治体も本気で取り組んでもらいたい。なにより私たちが、そのことを求めて意思表示をしていこう。



読者からの投稿

皆さまと一緒に作るコーナーです。皆さまからいただきました投稿の中から、選りすぐりのエピソードをご紹介します☆

『非対立』

木佐森 美奈さん(神奈川県)

半年前から解決できなかった業者の難しい案件に、WSで学んだ「非対立」でチャレンジしてみました。相手を責めることも、腹を立てることもなく、ポイントを明確にして気持ちを伝えました。その結果、なんと難問をクリア!!

涙がでるくらい感激しました。職場の方々とも感謝と喜びを分かち合いました。

ひとつ大きな山を越えただけではなく、今後の手応えも感じる事ができました。

学びたての「非対立」を実践できて、本当に良かったです。

『人の振り見て我が振り直せ』 星野 邦子さん(新潟県)

夜遅くに友だちから電話がありました。何とか! と思って出てみると、「幹事からの連絡が遅くて送別会に出席できない」という不満でした。幹事は、その方の自宅の電話には何度かかけたようですが、携帯電話にはかけなかったので連絡が遅れたようです。彼女には、それが不満でした。

私は、「そうねえ、わかるわ」と受け止めた上で、「幹事さんもたくさんの人に連絡するのは大変だろうね。留守電にしておけばよかったね」と話すと、彼女は幹事さんの苦勞に気づいて、「わかった。遅くに電話してごめんね」と電話を切りました。

腹を立てる時は1カメ(自分中心)ですが、2カメ(相手の立場)で考えると、腹は立たないものです。「人の振り見て我が振り直せ」、あらためて自分も気を付けようと思いました。

『自衛官の使命』

柿沼 美沙子さん(茨城県)

被災地でその使命を全うする自衛官は、本当にかっこいいです。

阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震、あちこちでの大活躍に誰もが感動と感謝を抱いていることでしょう。人の役に立ちたい、困っている人を助けたい……そんな志で自衛隊に入った人が多いと思います。

だからこそ、他国のために、殺し、殺される戦場に行くことには、不安、戸惑い、躊躇を隠せない自衛官も多いと聞きます。

「集団的自衛権」「戦争法」には絶対反対です。みんなで声をあげ、廃案に持ち込みましょう!!

311スペシャルレポート ヨーロッパ弾丸ツアー報告

海外在住邦人による脱原発グループ「よそものネット」に招かれ、2016年3月8日から24日までヨーロッパに行っていました。17日間で4か国(スイス、フランス、イギリス、ドイツ)をまわり、福島の実況を伝える講演を7回、デモ集会での発言2回、WHOでの面談、シェーナウ市見学、その合間を縫って雑誌・新聞の取材という強行スケジュールでしたが、たいへん有意義な体験をさせていただきました。

人見やよい(こおりやま「楽笑村」代表)

「よそものネット」とは、2011年、311を機に結成された海外在住邦人による脱原発グループです。ヨーロッパ各国にメンバーがいて、メーリングリストでつながっています。

彼らが「来年の311には、誰か福島の人のお話を聴きたいね」と相談し始めたのは昨年7月。その「誰か」の白羽の矢が私に立ち、ヨーロッパへ渡ることになりました。ドイツ語やフランス語はわかるが、英語すらままならない私が、単身で海外へ行き講演をするなんて想像もしていなかったのですが、思い切って飛び出してみようと思ったんです。

◆福島を振り返らないで!

私が講演で話させていただいたことは主に2点。

1. 福島の実況は収束していない。
2. 福島を振り返ってはならない。

除染の様子や自宅に埋められた汚染土、健康被害の不安、復興と言う名の安全キャンペーンなど、福島に住んでいる者だからこそ伝えることができる話を、精いっぱい話させていただきました。

質疑応答では、「福島の人は何を食べているのか」「安全な食品はあるのか」「入国時にはスクリーニングを受けたのか」といったものから、「凍土壁を採用したのはなぜか」といった専門的なもの。さらには「あなたはなぜ逃げなかったのか」という、答えに窮するものまでありました。

「原発は必ず止まると思う。それは、世論や市民の力によるものかもしれないし、裁判の判決でかもしれない。電力会社や政府がもう無理だと判断するかもしれない。どんな方法かはわからないし、その全部かもしれないけれど、人類がもてあそんではいけぬ原子力は、必ず手放すことになると思う。私たちは十分なエネルギーを既に持っている。あとは、足るを知り、分かち合うことが大事だと思う」というまとめに会場からは大きな拍手をいただき、同じ気持ちを持つ人たちが、世界中にいることを感じました。ヨーロッパにもたくさんの方々がいますが、いつか必ず廃炉にしなければと思います。そのために、世界市民と手をつないでいきたいです。



◆世界に広がる「脱原発」の声

「ヨーロッパでは、福島の実況事故は、チェルノブイリ事故よりも衝撃を持って受け止められた」と話してくれた人もいました。「日本は技術大国で、日本人はドイツ人のように真面目で勤勉と聞いていた。その日本が事故を起こしたことは大きなショック」というのです。

スイスのブルックという町には、スイスの原子力規制委員会があり、そのビルの前では、311以降、平日の夕方1時間、抗議のスタンディングが続いていました。私が訪れたとき、ちょうど1000日目の集会が行われ多くの市民が集まりました。

ジュネーブの日本領事事務所前では、やはり多くの市民が311に合わせて抗議活動。日本語のプラカードも見られ、原発再稼働や原発輸出といった、日本の政策に対して、反対の声をあげていました。

同じくジュネーブのWHO(世界保健機関)の前には、2007年4月26日から9年にわたって、静かにたずむ抗議行動が続いている「ヒポクラテスの見張り番」というチームもいます。

彼らが企画した「311折り鶴プロジェクト」(世界中から集まった折り鶴をWHOに届けるプラン)のおかげで、私はWHOの中に入ることができ、「福島で多発している甲状腺がんの疫学調査を、WHOとして行ってほしい」という要望を伝えることができました。脱原発グループも、対立することより、知恵を絞って前に進んでいることを感じました。

スイス・ジュネーブ

ドイツ・フライブルグ

イギリス・マンチェスター

イギリス・ロンドン

◆脱原発の聖地「シェーナウ」へ
全ての講演を終えて、最終日に憧れのシェーナウに連れて行ってもらいました。

シェーナウは、ドイツ西南部にある小さな町で人口は約2500人。チェルノブイリ事故後、原発電力からの独立をめざして、市民による電力会社を創設。節電コンクールや学習会を重ねながら、2度にわたる市民投票を勝ち抜き、電力供給の権利を得ました。

しかし電力会社が送電線の引継ぎに、不当なまでの高額な価格(約4億円)を提示。その嫌がらせにも市民は屈することなく、全国に寄付を呼びかけることで乗り切りました。現在は、ドイツ全土にクリーン電力を送る電力会社に成長しています。

市民発電所創設メンバーの中心人物、スラーデック夫妻に面会が叶い、お話を伺うことができました。「原発電気を供給する電力会社にお金が流れない仕組みを作ることが一番大切です。儲けにならなければ、原発は自然になくなるはずですよ」とスラーデックさん。医師でもある夫のミヒャエル・スラーデックさんは「健康への影響は、甲状腺以外にも出てくる可能性があります。十分注意して」と…。

●旅を終えて

日本は右傾化で、原発推進で、格差拡大で、どうしようもない国だと思っていました。でも、実はヨーロッパも右傾化、格差拡大、難民排除、そして原発依存…。先進国といわれる国は、自己中心的で差別的な一面を持っていた。ただ日本と違うのは、ヨーロッパ市民は政治に関心が高いこと。流されずよく意思表示が曖昧な日本市民は、もっと強く賢くなるべきだと思いました。そのためには選挙もとても大切です。

帰国前日に起きたベルギーのテロは、原発がターゲットだったことが後日判明し、震え上がりました。原発と差別のない社会を未来に残すため、これからも自分ができることをしていこうと思います。

イギリス・ロンドン

イギリス・ロンドン